

蕨・戸田地区 保護司会だより 第10号



第49回 戸田ふるさと祭 戸田市役所周辺にて 8月19日・20日



保護司は社会の宝

—蕨・戸田地区保護司会だよりに寄せて

関東地方更生保護委員会

委員長 大場 玲子

蕨・戸田地区保護司会の皆さまにおかれましては、平素から更生保護の諸活動に多大なご尽力を賜り、誠にありがとうございます。どのような時期であっても、様々な工夫を凝らしながら、地域社会に根付いた活動を展開しておられることに、心より感謝申し上げます。

さて、数年来、更生保護の分野において、「保護司の適任者確保」が最重要課題となっております。減少が続いていた保護司数は2年連続で増加となりました。これは、令和3年度から始まった特例再任制度により、多くの保護司の方々が引き続き特例再任保護司として御活躍いただいているお力添えがあつてのものであります。特例再任の方を除くと、新たに委嘱される方よりも退任されるの方が依然として多い状況にあり、保護司の適任者確保は引き続き、更生保護においての重要課題です。現在法務省では「持続可能な保護

司制度の確立に向けた検討会」が設置され、検討が進められているところです。これは、第二次再犯防止推進計画において、時代の変化に適応可能な保護司制度の確立に向け、早急に取り組むべき事項とされたことを受けたものです。

ここでは、保護司の待遇や活動環境、推薦・委嘱の手順、年齢条件及び職務内容の在り方、保護観察官との協働態勢の強化等、幅広く検討されておりますが、この場合は、変更ありき、結論ありきの検討会ではなく、これまで長年にわたり、保護司の方々が育ててこられた歴史、そして大切にされてきた思いや志を、いかに後世に継承し、発展させていくかがまさに核心だと確信しております。保護司は社会の宝です。ともに次の時代へ大切に受け継いでいけますよう、皆さまのご理解を心からお願ひ申し上げます。

希望をもって未来へ踏み出すために



戸田市長

菅原 文仁

蕨・戸田地区保護司会の皆様には、日頃から更生保護活動を通じ、安全で安心して暮らせる地域社会づくりに多大なるご尽力いただき、心から敬意と感謝を申し上げます。

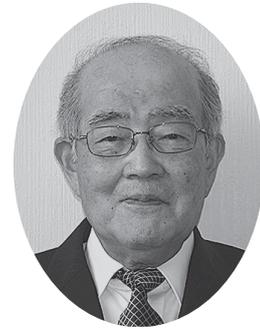
さて、令和5年5月8日より新型コロナウイルスが5類へと移行し、中止が続いていた各地のイベントも次々と再開され、市内各所においてもコロナ禍以前の活気を取り戻しつつあると感じています。

7月には「社会を明るくする運動」強調月間に合わせて、市内の3駅で行われた駅頭キャンペーンに私も参加し、啓発品を配布しました。昨年度はコロナ禍であったため、声掛けなしでの活動でしたが、今年度は声掛けをしながらの活動ができたことで、昨年以上に活気ある活動になったと感じております。

コロナ禍以前の日常を取り戻していく中で、犯罪や非行から立ち直ろうとする人が、誰一人取り残されることなく、希望をもって未来に踏み出せるよう、保護司の皆様には引き続きのご協力をお願いいたします。結びにあたりまして、貴会のますますのご発展をご祈念申し上げます。挨拶いたします。



あやまりのない再出発に寄り添う



蕨市社会福祉協議会

会長 下村 純久

保護司会だより第10号の発行に寄せ、一言ご挨拶申し上げます。

皆様方には、日頃から熱心な更生保護活動にご尽力されておりますことに、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

蕨・戸田地区保護司会は、非行や犯罪に陥った方々の立ち直りの支援をはじめ、次世代を担う青少年の非行防止や健全育成、更生保護への理解と協力をいただくための啓発運動など、幅広い活動を展開されており、その活動そのものは、切れ目がなく息の長い地道な活動でありますが、同時に大変尊いものであると考えます。

近年、犯罪や非行の発生件数が減少している一方で、その再犯率は20年以上一貫して増加傾向にあるとの調査結果も伝えられています。

こうした再犯を抑えていくためには、きちんと仕事を持ち、社会を構

成する健全な一員として地域で分け隔てのない生活を送れることが大切なことではないかと考えております。

そうした就労定着や生活環境の調整など、長い期間支援が必要となる方々にとって、会員皆様の活動こそが心の支えであり、社会に参加できる勇気をもたらすとともに、会員皆様の豊富な知識や経験を活かした、人間味のある活動により、地域社会の一員として、少しでも生きづらさのない生活が送れるものと考えます。

そして、地域社会においても行政・医療・保健・福祉関係者・企業等が繋がり、一人ひとりが尊重され、誰もが心豊かに生きられる社会環境を整えていくことが重要であると考えます。結びに、貴会をますますのご発展と、皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。

社会を明るくする運動

蕨支部

7月26日に推進大会（講演会）を実施しました。講師に埼玉県福祉部少子政策課の牧野圭那氏をお迎えし、「子供の貧困って？埼玉県にも困っている子どもたちがいます」の演題でお話しして頂きました。会場の蕨市立文化ホールくるるには、頼高市長をはじめとする多くの御来賓をお迎えし、参加者全員で講演を聞き、学ぶことができました。



子供の貧困率については、コロナ禍の影響等により、およそ7人に1人が貧困状態にあるそうです。3食きちんと食べられない、修学旅行や塾に行きたくてもいけないなどの実態があり、放置すると親から子への連鎖が懸念されています。この連鎖を断ち切るためには、自己肯定感を育む安心して過ごせる居場所づくりを地域全体で進める必要があります。

協力等の取組を紹介して頂きました。今年度、コロナ禍を経て久々の推進大会を開催し、支部保護司一同が協働できたことが大きな成果だったと思います。（湯沢保紀）

戸田支部

7月3日、菅原市長をはじめ更生保護女性会・市役所担当部局の方々と連携し、市内3駅にて啓発品を配布する駅頭キャンペーンを実施しました。合わせてポスター・横断幕の掲出、ポर्टコース戸田電光掲示板による広報も行われ、市内の中学1年生にはクリアファイル（更生ペンギン絵入り）を配布しました。犯罪や非行のない安全で安心な地域社会をめざし、今後も活動してまいります。（莊智子）



戸田公園駅で啓発品を配布する菅原文仁戸田市長



学校との連携

去る7月上旬に蕨・戸田市内の中学校との懇談会が開催されました。名称形式等はそれぞれですが、双方が緊密な関係を持ち、学校内外の諸事について意見交換をするというもので、1980年代に全国の学校が荒れていた時期に実施し現在に至っております。

保護司から見ても中学生時代の少年少女というものは中々捉え処が無く、対応に苦慮するところが多いものです。

それは彼らが正に成長期の真っ只中であって、且つ心と体のバランスが取れていない状況にあり、本人たちも希望と不安に戸惑いながら日々の生活を送っている、そんな状況に置かれているからだと思います。

保護司の高齢化が叫ばれている。今、我々はことさらに年齢や感覚のギャップを感じて彼らを遠い存在に感じやすく、その点彼らと日常的に接している先生方から、その時々の子の情報が聞けるということは大変ありがたいことです。

学校の年間の行事が密になっていく中で、時間を割いてくださる学校側には感謝すると共に、この懇談会での意見交換の重要性を改めて認識いたしました。（鈴木幸義）

「カウンセリング研究会 公開講座」に参加して

埼玉県保護司カウンセリング研究会の公開講座が8月25日、さいたま商工会議所で開かれ参加しました。テーマは「カウンセリングで出会う子どもたち」講師は澤村明子臨床心理士です。

不登校の児童生徒が9年連続で増加、全国で過去最多の24万5千人。その要因は「無気力・不安」が50%です。背景には発達障がい、神経症、心身症と学業不振、家庭問題、いじめ・友人関係、ゲーム依存などがあり複合化しています。

主要な原因の一つ、発達障がいはいは19歳以下で22万5千人、男女比は2対1。よく耳にするのは

- ① 自閉症スペクトラム (ASD) 人とコミュニケーションが苦手・物事に強いこだわりがある特徴をもちます。また合併症は多岐にわたります。
- ② 注意欠如・多動症 (ADHD) 年齢に比べ注意力が足りない。衝動的で落ち着きがない特徴があります。

また神経症の適応障がい、うつ病、不安障がい、心身症の起立性調節障がいなど澤村先生の経験からのご判断を拝聴することができました。

コロナ禍の影響も大きく、社会全体でサポートする体制を早く整える必要性を感じました。（比企孝司）

保護司さんに聞いてみた!



プロフィール

三輪 一榮 保護司 保護司歴39年 前市議会議員

インタビュー第3回目は保護司歴39年のレジエント、三輪一榮さんです。三輪さんには、これまでの保護司活動を振り返り貴重なお話を聞きしました。

保護司になっただけは？

三輪 所属していた消防団の先輩が保護司をしており、その方の強い勧めがあり保護司を引き受けることといたしました。

これまでの保護司活動を教えてください。

三輪 昭和59年、37歳の時に保護司を拝命しました。保護司歴39年間で少年41人、成人43人を担当してきました。また環境調整も50件以上担当しました。当初は中学生の対象者が多かったと記憶しています。今では考えられませんが多いときは同時期に6、7人を担当したこともありました。

スキルを身に付けるための研修等は受けられましたか。(研修制度や仕組み)

三輪 最初は保護観察所の定例研修だけでしたが、その後さいたま保護観察所が実施する特別

研修も受講しました。さらに

「カウンセリング研究会」や保護観察所OBが立ち上げたゼミに参加し、このゼミでの意見交換が一番参考になりました。

対象者との面接は主に何処でどの様に行なっていますか。

三輪 殆ど自宅で行いました。家族からの反対は特にありませんでした。今もそうですが面接時間は大体1時間位かけて行う事が多いです。少年の場合、初回面接は親と一緒に来訪が多いのですが、2回目の来訪面接がその後の少年との信頼関係構築に向け大変重要であると感じております。

保護司のやりがいや苦勞話、喜び、やっていて良かった事がありましたら教えてください。

三輪 苦勞話はたくさんありますが長い間、保護司をやってこ

れたのは、やはりやりがいがあったからだと思えます。対象者毎にやり方が違いますが、自分の考えを押し付けるのではなく、よく聞いてあげることにより対象者の良い面が出てくるように感じました。強く印象に残っている例としては、対象者の刑務所面会に行き2時間以上かけてじっくりと聞いていくにしたいが対象者の心が開き、意思の疎通を図ることができたという体験がありました。その後、定期的な手紙のやり取りを行うことにより早期出所に繋がり社会復帰が叶った事例がありました。

保護司の高齢化が進んでいますが、お考えは。

三輪 保護観察制度については昔と比べると手厚くなっています。が、定年延長や働き方改革などの社会変化により現役世代との接点がなくなってきたおり、保護司をお願いできる人が少なくなっているのが現状です。これまでに候補者の推薦に携わってききましたが、このままでは先細りにならないかと危惧しています。

保護司に興味がある人、保護司になるか迷っている人へ一言お願い

三輪 三輪 これまでを振り返ってみると保護司をやった良かったと思うことが多くありました。取り組んできた活動が全て上手くいったわけではなく失敗事例も多々あります。失敗して学ぶこと成長することが多かったと思います。基本的には対象者に寄り添い支える、という考えで行ってききました。

※インタビューを終えて

三輪さんのような知識や経験が豊富な方のお話をお聞きし、高齢化で保護司の担い手確保が急務の今こそ、やりがいのある社会貢献活動であることを多くの方に知ってほしいと思いました。(小槻保美 細井玲子 眞下賢)

*1 「環境調整」対象者の釈放後の住居、引受人、対象者の家族などの関係者、就業先や通学先の状況、被害者等の状況、矯正施設収容前の生活状況や交友関係、対象者の心身の状況、生計の見込みを計画します。

*2 「カウンセリング研究会」埼玉県保護司の有志で結成され、社会を明るくする運動をはじめとし公開講座などを開催し日々研鑽している団体です。

「子ども食堂」といってつながりの場

夕方からの居場所づくり「ぼっかぼか」

代表 新妻 朋子

「子ども食堂」と聞くとどんなイメージがあるでしょうか。貧困家庭の支援を思い浮かべる方がとても多いと思います。しかし、「子ども食堂」は貧困のためだけでなく、仕事などで親の帰りが遅く子どもだけで食事をしていく「孤食」、地域との繋がりが少なく子育てに悩んでいる「子育て」など、地域には孤独に我慢している「困った」があります。そこで、子どもも大人も様々なつながりの場が必要だと感じ、地域の居場所として誰でも利用できる「子ども食堂」を2016年に始めました。そのような中コロナ禍では会食が難しくなり食堂が開けなくなりまして。コロナ禍で仕事を打ち切られてどうやって生きていくのかと困っているシングル家庭からの相談がいくつもあり、高校生までの子どもがいるシングル家庭で経済的に困っている家庭を対象に申込制で食材と無料お弁当配布の活動をしてきました。2023年4月からは会食形式の食堂を再開でき、現在は両方の活動を



継続しています。食堂では子どもたちの元気いっぱいな笑顔も見ることができ、心配な子には声掛けが出来ます。どんな子も地域でゆるやかに温かく迎え入れられる居場所は、これからもっと沢山増えていくといいなと思います。

開催日時 月2回16時～19時半
(食事は17時半～19時半)

場所 郷町会館(蔵市錦町2-14-8)
18歳以上300円+お気持、子ども0円

ホームページ・Facebookは、「ぼっかぼか蔵」で検索。

サポートセンターだより

時おり雨がぱらつく中、第4回戸田市健康福祉の杜まつりが10月1日に開催されました。蔵・戸田地区保護司会も参加しました。

配付した啓発品のメーカーペンやウエットティッシュは、数が足りなくなるほど好評でした。

「保護司って何をされている方ですか?」と聞かれ、特に小学生に上手く説明するのが難しかったです。

他のブースでは、体力検査・お口の健康チェック・食育や手洗いチェック・各相談コーナー等がありました。屋外ではキッチンカーや各ボランティアの方々のコーナー、特に人気があり常に行列があつたのがふれあい動物園でした。

色々なボランティア活動を知る良い機会でした。
(島田幸昌)



戸田支部県外研修

警視庁本庁舎と法務省資料展示室見学

戸田支部では令和5年3月8日、日帰りの県外研修を行いました。早春の天気恵まれた一日で、都心にある警視庁本庁舎と法務省資料展示室が主な研修先です。早朝に戸田市役所を出発して、最初の見学先は警視庁本庁舎です。この施設は警察業務の様々な活動を知り理解を深めるための案内施設です。特に印象に残っているのは、戦後の重大な犯罪についての資料があり、説明員もいて分かりやすく理解できたことです。

警視庁の次はすぐ近くの法務省で、見学先はひととき目立つ赤レンガ作り棟にある法務資料展示室です。明治時代から現在までの法制度を説明する資料など貴重なものがたくさんあり、目を奪われてしまいました。

視察研修の後は、近くの国立公文書館と東京国立博物館で教養を深めて心豊かな一日を過ごし、県外研修を終了しました。
(大山正治)



保護司の異動

新任保護司

令和5年12月1日付

栃本 由兼(蔵)

消防官として44年間勤め、令和5年3月に退職。先輩保護司の強い勧めもあり、この度保護司を務めさせていただくことになりました。保護司の活動が地域の安全と安心につながり、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことがないよう微力ながら努めてまいります。

退任保護司

令和5年5月24日付

寺尾 博(戸田)

令和5年11月30日付

浦野 一郎(戸田)

春山 嘉正(戸田)

保護司を拝命して足掛け十五年になりました。瞬く間に過ぎた様に思われます。その間十七名の対象者を担当させて頂きました。育んでくれた社会への恩返しのためにも努めて参りましたが、果たしてお役に立てたのかと思う昨今であります。

また、保護司会を通して多くの方々と出合え、お力添えを賜り、任期満了を以って無事退任できますこと、心より感謝申し上げます。

第70回 埼玉県更生保護大会

令和5年11月21日、小春日和となった穏やかな晴天に恵まれ、戸田市文化会館ホールにおいて、第70回埼玉県更生保護大会が開催されました。

新型コロナウイルス感染症が5月8日より2類から5類に移行しましたが、今年度も感染拡大防止対策のため、参加者の規模を縮小し更生保護関係者約260名が集いました。

大会は、二部構成となっており、一部は社会を明るくする運動再犯防止啓発の映画鑑賞でした。二部では埼玉県保護司会連合会の安齋彰会長が式辞で「孤立させず、



地域と繋がりが続けることが再犯を防ぎ、誰一人取り残さない社会の実現に寄与したい。」と決意いたしました。その後、功労者への表彰、感謝状の贈呈などがありました。

(大森洋子)

法務大臣表彰

榎本 忠 (戸田)

全国保護司連盟理事長表彰

駒崎 恭子 (戸田)

眞下 賢 (蕨)

関東地方保護司連盟会長表彰

熊木 幸夫 (戸田)

中村 信成 (戸田)

大森 洋子 (戸田)

福島とよ乃 (戸田)

福田 政文 (戸田)

さいたま保護観察所長表彰

荒井 育恵 (蕨)

埼玉県保護司会連合会長表彰

前川 康恵 (蕨)

埼玉県保護司会連合会長感謝状

高橋 和美 (蕨)

全国矯正展

12月9日・10日 国際フォーラム

法務省が社会を明るくする運動の一環として毎年開催しています。

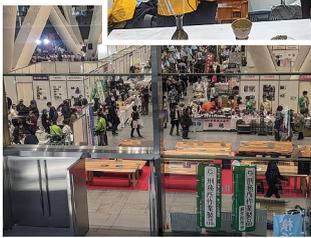
今年度は「地域との共生」というテーマで、刑務所だけでなく、自衛隊、警察、地元で矯正をささげる民間企業も多く参加していました。

刑務所ヴァーチャルリアリティ体験では、VRゴーグルをつけての刑務所の施設見学をしました。

刑務作業体験等では、木工製品を小学生から高齢者まで様々な年代層が参加していました。

また「網走監獄和牛弁当」や「府中刑務所のパン」、「横浜刑務所パス」のブースでは長い行列ができていました。刑務所作業製品の種類も増え、全国の矯正施設から来ている刑務官とのおしゃべりも貴重な体験となりました。

(細井玲子)



令和6年度 年間事業計画 (案)

2月	1月	12月	11月	10月	8月	7月	4月	令和5年度監査
役員会	保護司候補者検討協議会「保護司会だより」発行	年末保護強化研修	第3期地域別定例研修	役員会 学校との連携	第2期地域別定例研修 県外研修	学校との連携 保護司候補者検討協議会	総会 第1期地域別定例研修 サポートセンター運営 (4月~3月)	

編集後記

今号も更生保護活動に関する情報を発信できました。お忙しい中ご寄稿頂きました皆様様に心より御礼申し上げます。

編集委員

- 大森 洋子
 - 大山 正治
 - 熊木 幸夫
 - 小槻 保美
 - 庄 智子
 - 津田 直哉
 - 細井 玲子
 - 眞下 賢
- (50音順)